

【2023年3月 第25回オンライン講演会予定】

●2023年3月28日(火) 14:00~15:30 (曜日注意)

講師:佐藤嘉信氏(パナソニックホールディングス(株)終身客員、当会会員)

演題:「困難を乗り越える松下幸之助の考えの根底にあるもの」

【概要】

昨年、一部の善隣会員を松下幸之助が茅ヶ崎に創設した松下政経塾にご案内し、善隣誌に寄稿したところ、鄧小平の改革開放の要請に応えた松下幸之助について話すよう依頼を受け、お引受した。文化大革命の荒廃から、中国が改革開放に転換する黎明期の1978(昭和53年)に来日した鄧小平の近代化協力要請に、政治経済体制が異なる中で松下幸之助はどのように応じたのか。

松下幸之助は4歳で父親の事業の失敗から家族離散、9歳から奉公に出た。貧困、病弱、無学歴といった逆境、大恐慌・悲惨な戦争といった苦難を乗り越えながら、「人類の繁栄・平和・幸福」について思索を重ね、一代でグローバル企業を築き、理想的な社会を築くにはリーダーの養成が必要と私塾まで設立し、余すところなく人生を生き抜いた。

本講演では、「困難を乗り越える松下幸之助 考えの根底にあるもの」と題し、エピソードをまじえ松下幸之助の生きざまやモノの見方考え方をご紹介します。

◆講師略歴

1969年明治大学卒業後、松下電器産業に入社し、日本、アメリカ、中国でグループ会社経営やマーケティング活動に従事、

松下電器産業常務を経て、明治大学経営学部客員教授としてグローバルマーケティングや日米経営比較論の教鞭をとる。

<参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時は顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。(当日、開会1時間前から終了まで公開)

【2023年3月 第26回オンライン講演会予定】

●2023年3月30日(木) 13:00~14:30 (時間注意)

講師:橋村武司氏(日本天水会会長、清華大学日中民間交流研究所顧問)

演題:「中国留用そして祖国で一日中友好交流の旅路―」

【概要】

中学1年の時、敗戦を中国東北ハルピンで迎えた。戦後、八路軍は有識日本人を命令または要請して留用した。留用要請を受けた義父(満鉄技師)に同行して中国に残留した。

「食にも飢えたが、学問にも飢えた」。第四軍靴廠では労働模範。次に「米の飯が食べられる」鶴崗炭鉱に志願、左手指先を切断したが「太陽の下でなら何でもできる」の人生の指針と自信を得た。1950年10月、当局の南下命令で甘肅省天水市に到り、天蘭線鉄路建設に従事。私は天水鉄路中学に復学した。1953年3月、祖国日本に帰国した。翌年、天水会を創設し、日中友好活動を70年間継続。天水に中日友好桜花園を開園。“シルクロードに桜と超高速鉄路を”を胸に日々努力中。

◆講師略歴

橋村 武司(はしむら たけし)

天水会 会長、龍騰グループ 代表、NPO 法人 科学技術者フォーラム 元理事

1932年5月生、長崎県出身。

1953年3月 中国より引揚げ帰国。

1955年9月~60年 中央大学図書館(工学部) 臨時職員として夜間勤務。

1956年4月 中央大学工学部電気工学科入学。

1960年3月 中央大学工学部電気工学科卒業。

大学卒業後、シチズン時計(株)入社、水晶時計、事務機器、健康機器の研究・開発を歴任。

1984年 (株)アマダ入社。レーザー加工機及びロボットの研究・開発。中国進出計画に参加。

1994年 タカネ電機(株)入社。中国深圳地区で委託加工工場を立ち上げる。

1995~97年 JODC 専門家(通産省補助):北京清華大学精儀系でセンサー技術指導。

国内では特許流通アソシエイト(財法 発明協会):地域産業振興を促進。

2000年から09年 北京八達嶺鎮で防風固沙の植林を北京地理学会と共同活動。

中国技協節能建築技術工作委員会 外事顧問:省エネ、環境問題に参画。

現在、龍騰グループで日中人材交流、技術移転、文化交流で活動中。

(論文)「計測用時計について」(日本時計学会誌 No.72 1974年、共著)

『センサ技術調査報告』(日本ロボット学会、共著)

<参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時は顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。(当日、開会 1 時間前から終了まで公開)